

乳幼児における血小板数の検討

松谷幸子 石戸谷雅子 片桐克則

仙台赤十字病院耳鼻咽喉科

乳幼児期には感染などの刺激に対する血液学的反応は成人と著しく異なる事があり、50万/ μl を越える血小板増多が認められる事も稀ではない。100万/ μl 以下50万/ μl を越える血小板数増多の原因は組織損傷、出血、貧血などであるが、中でも感染の急性期の反応に伴う頻度が約3割で、もっとも多いとされる。しかし、血小板数は一連の血液検査で同時に測定されているにもかかわらず、急性炎症疾患の経過中の変化についてはほとんど注目されてこなかった。近年、乳幼児の急性中耳炎の遷延例や重症例が問題になっている。当科および当院小児科では乳幼児の急性中耳炎においてCRP・白血球数に加え血小板数の変化も参考にし、経過を観察している。今回、当院の3才未満の乳幼児の50万/ μl を越える血小板数の増加の原因疾患について検討したので報告する。